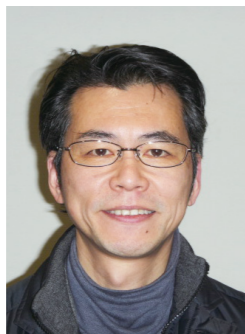


大人の責任で わかる子・できる子を 育てましょう

愛媛大学教育学部
吉松靖文 准教授



子どもはみんな勉強をわかりたいと思っていますが、わからないと嫌になってしまいます。大人も同じです。仕事ができるから仕事が好きになるし、できなければ嫌になる。わからない・できないからやる気が起きないのです。大切なのはできるようになる方法を見つけることです。

私の専門は障がいがある子どもの理解と支援の研究です。研究を続けてわかったことは、障がいは子どもになく、大人(周り)にあるということ。例えば、読み書きや計算などが苦手な障がいとして学習障がい(LD)があります。LDがある子どもたちは、努力してもなかなか読み書きや計算などが上手にできるようにはなりません。でも、原因は本人の努力不足ではありません。周りの大人(教師や親など)が特性を理解せず、これまで通りの効果

のない教え方をするからうまくいかないのです。

大人は一生懸命子どもに教えれば教えるほど、身につかなさの原因を子どもに求めがちです。本当は教え方が悪いのです。だから障がいは大人にあるのです。特性に合った教え方だと、LDがある子どもたちでも苦手が改善できます。だからこそ子どもの苦手を放置したり、やる気のせいにしたりしてはいけません。

子どもは、大人から教わってできることが増える経験をすることが大切です。それが大人を信頼し、努力する力を育みます。子どもがやる気を出さず大人に反抗するのは、大人の教え方が子どもに合っていないからです。大人を怒らせたい子どもはいません。子どもは大人が喜んでくれることに命を懸けられる存在です。その子どもが大人を怒らせるとしたら、大人の方に問題があるのです。

これは会社(仕事)も同じで、よい上司に反抗したり悪口を言ったりする人はいません。よい上司は部下にできる仕事を与え、確実に仕事を成功させる指示や支援を行える人です。一方、ダメな上司は部下にできない仕事を与え、失敗を部下や運のせいにする人です。私たち大人は、部下である子どもに分かる勉強という仕事を与える上司である必要があります。そしてよい部下を育て、いつかは「管理職(社会を支える大人)」を育てたいものです。そのためにも親と教師が協力し、子どもにわかる勉強、できた経験をさせてあげたいものですね。

家庭での支援

勉強面で…

- アルファベットや簡単な単語のつづりが覚えられない
- 文字の形の特徴に気付けるよう大きく書いたり、カードを使ったりして覚えさせる
- 計算が苦手
- そろばんを使い、繰り上(下)がりが分かるようにする
- 九九の表を掲示する
- 生活の中で…
- 話がとんでしまふ
- 紙に話すことを書き、話が終わったら紙を見せたり指で押さえてたりして、話に注目させる
- 忘れ物が多い
- 教科書やノートなどの置き場を決める。ハンカチなども近くに置き、準備しやすくする
- 運動のバランスが悪い
- 遊具を使い「よじのぼる」「ぶら下がる」「跳ぶ」など、体を使うようにする

子どもに自信を持たせることが大切です。できなかつたことに「×」をつけるのではなく、一緒にやってみて、できたら花丸をあげましょう。

★特別支援教育

子育ての困り事

「うちの子、忘れ物が多いのよね」
「算数がすごく苦手みたい…」
子育てをしていると気になること、戸惑うことがたくさん出てきます。成長の仕方は十人十色。その子に合った育ちと一緒に考えませんか。まずは、町内学校での支援を紹介します。

1 通級指導教室

通級指導教室は、言葉の遅れや学習・対人関係にうまくいっていない子どもにも支援を行う教室です。子どもたちは通常の学級に在籍し、決められた時間に個別指導を受けるために通級します。この教室では、子どもや保護者の要望を聞き、担任の先生たちとも相談しながら、一人一人に応じた方法で困っている部分を改善・克服する勉強を行います。町内では岡田小学校、松前小学校、松前中学校に設置しています。在籍校にこの教室がない場合は、他校の教室に通うことができます。

2 特別支援学校の活用

特別支援教育のより専門的な知識や経験がある特別支援学校のコーディネーターが、要請を受けた学校へ訪問します。そこで、子どもの様子を見たり、保護者や教師の話の聞いたりしてアドバイスをします。近隣には松山聾学校、みなら特別支援学校、しげのぶ特別支援学校などがあります。このような専門的な機関を活用し、町内でも細やかな支援ができるようにしています。

3 学校生活支援員の役割

学校生活支援員は授業に集中できない子への声掛けや、先生の話の聞き逃しをしまう子への個別説明などをします。そして、学校生活になじみにくい子どもが楽しく過ごせるようにしています。

4 町内の連携

就学や進学など、新しい環境でも子どもたちが活動しやすくなるように、各機関が連携をしています。【保育所・幼稚園から小学校へ】小学校へ引き継ぎを希望するときは、入学後の学校生活、保育所や幼稚園の先生と就学支援シートを作成します。【小学校から中学校へ】小学校では、保護者と相談して、一人一人の支援の手立てとして「個別の指導計画」を作成します。計画には指導目標や指導の手立てなどを記入。保護者の了解をもらい、中学校へ送付、説明をして、中学校での生活がスムーズに進められるようにします。

▶就学支援シート

【保育所・幼稚園記入欄】		記入者
I 成長・発達の様子		
①健康・身体に関すること ○基本的な生活習慣のこと (食事・着替・好き嫌い・排泄) ○手・目の動き、ひねり ○運動・姿勢・動作の特徴のこと ○身体上のこと ○健康上のこと	保育所・幼稚園の様子	配慮や支援の内容・結果・経過
②人とのかかわりに関すること ○集団活動の様子 ○集団でのかかわり ○意思疎通の方法 ○コミュニケーションの様子 ○言葉・指示の理解の状況・程度 ○どのような場面・場所 ○1対1の関わり ○かかわりの相手		
③日常生活に関すること(遊びの様子) ○遊びや活動に取り組む様子(興味・参加) ○好きなこと・苦手なこと(場面) ○製作・課題活動の様子		
④性格・行動の特徴 ○興味関心のある事柄や程度など ○多動性・衝動性 ○ニック、自傷、他害行為 ○チック、吃音、場面緘黙などの状況		
II これまでの指導により伸びたこと、これからも伸ばしてほしいことなど		
【保護者記入欄】		
III 小学校入学後の学校生活に関する家族の意向		